

西国第八番 豊山

御本尊／十一面観世音菩薩 開基／徳道上人

真言宗豊山派（総本山） 長谷寺

長谷の観音さま

化主 川俣海淳

西国三十三所第八番霊場長

谷寺は、別名「花の御寺（み
てら）」とも呼ばれており、一
年を通して梅・桜・牡丹・あ
じさいなど色取り取りの花々
が咲き誇ります。また、秋に
は山全体が紅葉に包まれて、
本堂の舞台から見る景色はま
ことに格別なものでございま
す。

長谷寺のご本尊さまは身の
丈十メートルを超える大きな

観音さまで、正式なお名前を

十一面観世音菩薩と申します。
神亀四年（727）徳道上人
というお方が、聖武天皇の勅
願を受けて造立されました。
以来、千三百年にわたって長
谷の観音さまは小初瀬山にお
立ちになり、現在に至るまで
慈悲のまなざしを我々に向け
続けておられます。

さて、長谷の観音さまをお
造りになられた徳道上人は、

西国三十三所観音霊場を開か
れた大徳として知られており、
それゆえに長谷寺は、西国三
十三所の根本霊場とも呼ばれ
ております。そのため、長谷
の観音さまのご利益を求めて
多くの人々が長谷寺を訪れま
した。特に平安時代には、貴
族による「初瀬詣で」と呼ば
れる参拝が増え、その様子は、
『源氏物語』・『枕草子』・『更科
日記』などに詳しく記されて
おります。

長谷の観音さまを慕う人々
が増えるにつれて、全国各地
に長谷寺と同名の寺院が建て
られ、長谷の観音さまのお姿
を写し取った御分身が祀られ
ました。その寺院数は二百を
超えるといわれており、観音
信仰を広めるための中継点と
して大いに発展をいたしました。
すなわち奈良の長谷寺は、
全国に広がる「長谷寺」の発
祥の地とも言えるのです。

長谷寺には、西国三十三所

中興といわれる花山法皇に
よって詠まれた歌、「幾たびも
参る心ははつせでら山も誓
いも深き谷川」というご詠歌
が伝わります。「何度お参りし
ても初めて訪れた心地になる
長谷寺は、美しい自然と観音
さまの深いお慈悲に包まれて
います」といった意味になり
ましょうか。

どうか皆様には、幾たびも
長谷寺にお越しいただき、長
谷の観音さまとのご縁を一層
深められ、たくさんのご利益
を授かっていただければ嬉し
く思います。

